

大阪大谷大学

平成二十九年 度 入学試験問題（公募制推薦 後期）

国 語

注意事項

- 一 問題用紙は全部で十二ページです。解答用紙は一枚です。
- 二 解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
- 四 問題用紙は持ち帰ってください。

一 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

陽子ちゃんと知り合ったのは近所のパン屋だった。

仕事の帰りに、あるいは週末に、家で食べるためのパンを買う。それにはこの店の、小麦の匂いのぷんと立ち上がる堅いパンがいちばんだった。小麦と水と天然酵母だけで焼かれたソボク<sup>a</sup>なパンだ。特に宣伝しているわけでもなさそうなのに、店には客足が途絶えることがない。普段着で、ひとりで購入に来る女性客が多く、地味なパンがひっそりと売れていく。世の中は私が思っているよりも上等なのかもしれない。この店に来ると、そう思うことができた。

その小さな店で一度だけパン教室が開かれた。

天然酵母パンを焼いてみませんか——そう書かれた貼り紙にどうして振り向いたのか今となっては思い出せない。パンは買うものとして決まっていた。自分で焼く暇なかなかった。それなのに、気がつくと、参加しますと申し出ていた。普段はパンを焼くどころか料理もせずに済ませたいほうだから、罪滅ぼしみたいな気分だったのかもしれない。

参加者は女性ばかり十五、六人だった。パンを焼くのがまったく初めてなのは、驚いたことに私ひとりだったようだ。みんな、家でパンなんか焼くんだろうか？ いつ？ なんのために？ 聞いてみたい。聞いてみたい、と思いつつ、額ふでいに取った小麦を延々とかきまわし続けた。こうやってフスマを取り除くのだそうだ。休みなく粉をかきまわすうちに掌てのひらは赤くなり、額にはうっすらと汗をかいていた。ふと顔を上げると、台の端で店の主人が黙々と小麦を篩ふるい続けている。プロツbな求道者ていどうしやのようにも見えた。

想像していたユウガ<sup>c</sup>な教室とは違い、課される作業はひたすら地道で厳しかった。しかも、主人がいちばん熱心なのだ。手を休めるわけにもいかなかった。いくつかの班に分かれてけっこうな重労働に励んでいたせいで、別のグループの人とは言葉を交わす機会もないほどだった。だから、実習中の陽子ちゃんの様子を私は見ていない。見ておきたかったな、と思う。柔らかな髪を白い頭巾ずきんに包んで一心不乱に粉をこねていたんだろう。

教室の終わりに、焼けたパンを試食してひとりずつ感想を述べた。私はへとへとだった。パンはたしかにおいしかった。イベントとしては成功かもしれない。しかし、あの工程を思うととてももう一度自分で焼く気にはなれなかった。

楽しかったです、おいしかったです、お店のパンが自分でも焼けるなんて感動しました——参加者たちが順々に<sup>②</sup>つるつるした感想を述べていき、いよいよ私は I。楽しいというなら、のんびり映画でも観<sup>み</sup>ているほうが楽しい。おいしかったけれど、窯<sup>かま</sup>から出したばかりで、しかも最<sup>ひい</sup>負<sup>ま</sup>目<sup>め</sup>が入<sup>い</sup>って三割増にはなっている。だいたい、手取り足取り教えられてなんとか焼き上がったのだ。余裕のある感想などまるで出てこなかった。

「私は自分では決して焼かないことにしました。この店でずっと買い続けます」

凜<sup>りん</sup>とした声でそう宣言した人がいた。まったく同じ気持ちだったから、私はうつむいていた目を上げて発言者の顔を見た。髪の長い、可愛い<sup>かわい</sup>女の子だ。それが陽子ちゃんだった。

帰り道で一緒になった。

「びっくりしたなあ。いくら挽<sup>ひ</sup>きたてがおいしいからって毎朝その日の分だけ小麦を製粉するなんて」

前を向いたまま陽子ちゃんがいった。私は隣で小さくうなずいた。

「それをぜんぶ手で漉<sup>こ</sup>すんだもの。篩<sup>ふる</sup>にかけて、混<sup>ま</sup>じってるかどうかもわからない外皮をくまなく探す」

毎日そこから始める人がいるのだ。私たちは言葉少なに商店街の中を歩いた。

上等だと思っていた世の中を、実はなめていたのかもしれない。適当にやっていたら、適当にやっていたら、適当にやっていたら、社会人生活十年目にしでそんなふう<sup>①</sup>に思いかけていたところだった。適当にやってちゃ、あのパンは焼けない。いつどんなときに食べてもしみじみとおいしいものが、適当につくられるわけがなかった。

世の中にはいろんなすごい人がいて、ぱつと思いつくアイデアのすごい人もいれば、地道な作業を淡々とこなすパン屋の主人みたいな人もいる。あたりまえといえばあたりまえなのに、ぱつとするほうに目を奪われて、パン屋の主人に気づかない。少なくとも私はパン教室に参加しなければずっと見過ごしたままだったろう。

「今日は参加できてよかったよ」

陽子ちゃんがホウシンしたようにつぶやいた。

③「すごい人に会うと敬虔な気持ちになるね」

私たちはふたたびうなずきあつた。

ちやうど分かれ道に来ていた。陽子ちゃんは私鉄で二つ先の駅に住んでいるのだという。駅に行くならまっすぐだ。でもふたりともぐずぐずしていた。このまま分かれたくない気分だったのだ。今ひとりになりたくなくなかった。④ここで分かれたら広い空の下でひとりぼつちだ、という気がした。角のドーナツショップに、どちらからともなく入った。

陽子ちゃんはドーナツを食べながら、ごくカンタンに自分のことを話した。都内の女子大を出て、文具メーカーに勤めているという。私とは二歳しか違わない。もっと若くふわふわして見えたから意外だった。

お互いに自己紹介をしようとしたら、私たちにはほとんど話すことがなかった。⑤こういう可愛らしいタイプの女の子とは接点がない。私たちの間の共通点はたったひとつ。今日のパン教室に参加して、打撲を負ったことだけだ。とはいえ、できたばかりの打撲傷の場所も深さもお互いに計りかねていたんだと思う。うすいコーヒーを飲んで、長い間ふたりとも黙っていた。

「ほんとはね」

と、やがて陽子ちゃんが口を開いた。

「あたし、パン屋になりたかったんだ」

「うん」

「でもやめた。あんなの見ちゃったら、楽においしいパンを焼こうなんて考えられなくなるもの」

それから不意にうつむいた。涙が一粒トレイの上に落ちた。

とっさに私は目を逸らしていた。おかわりのコーヒーをもらうふりをしてあわてて立ち上がる。思いがけない涙だった。さつき初めて会ったばかりの人間の前で涙をこぼせる素直さにうろたえていた。うっとうしいと思った。そして同時になんだか猛烈にうらやまし

かった。

それが三年ちよつと前だ。

何の共通点もなかった私たちだったのに、それからたまに会ったり電話で話したりするようになった。いろんなところが違っていて、パン屋で打たれてしまった、その点でしつかりと結ばれていた。あのととき無難な感想をいった十数人の顔はひとつも覚えていない。打たれるにも II がいるのだ。それを初めて知った。

(宮下奈都「転がる小石」による)

(注)

フスマ……小麦を粉にひいたあとに残る皮。

凜とした……きりつとひきしまっているようす。

敬虔な気持ち……神や尊いものをうやまい自らの言動をつつしむ気持ち。

問一 二重傍線部 a、e のカタカナを漢字に直せ。

問二 傍線部①「世の中は私が思っているよりも上等なかもしれない」の「上等」とはどのようなことを言っているのか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア それほど高くなって質のよいものが、世の中に出回っていること
- イ 本来によいものならば、目立たなくてもきちんと評価されること
- ウ 本物嗜好は、経済的に恵まれていない人にも行き渡っていること
- エ 質のよいものを求める風潮が、独身女性の間にはあるということ

問三 傍線部②「つるつるした感想」とはどのような感想か。説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア あたりまえ過ぎて、言う必要もないつまらない感想
- イ その場にふさわしくなく、周囲をあきれさせる感想
- ウ よどみなく頭に入ってきて、とても分かりやすい感想
- エ 聞き心地がよく、誰にとっても当たり障りのない感想

問四 空欄部 I に入る最も適当な語を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 驚いた
- イ 喜んだ
- ウ 戸感った
- エ 悲しくなった
- オ 恥ずかしくなった

問五 傍線部③の「すごい人」とは、どのような人のことか。解答欄の「人」に続くように、本文中より十二字で抜き出して記せ（句読点等は字数に含む）。

問六 傍線部④「ここで分かれたら広い空の下でひとりぼっちだ、という気がした」のはなぜか。理由として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 同じ感想を持ったので、相手のことをもっとよく知りたいと思ったから。
- イ 同じ価値観を共有する人と出会えるのは、めったにないことだと思ったから。
- ウ 地方から出て来た一人暮らしの「私」には、他に心を許せる友がいないから。
- エ 都会では、近くに住んでいる人でも、この後会えるとはかぎらないから。

問七 傍線部⑤「打撲を負った」とは、〈精神的に衝撃を受けた〉ということである。二人が衝撃を受けた理由を、五十字以内で記せ（句読点等は字数に含む）。

問八 空欄部 Ⅱ に入る最も適当な語を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 経験
- イ 体力
- ウ 知識
- エ 勇気
- オ 資質

問九 本文から読み取れる、陽子ちゃんの人物像(1)、「私」の人物像(2)として、最も適当なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

- ア 自分の考えは大事にしているが、それを表に出せない人物
- イ どんな場面でも、思ったことをはっきりと言う率直な人物
- ウ 他人に対して厳しく、常に批判的な視点をもっている人物
- エ 自分の考えや思いに真正面から向き合い、表現できる人物
- オ 自分と同じ価値観の人を大切にする、愛情にあふれた人物



□ 次の文章を読んで、後の間に答えよ（設問の都合上、原文の一部を省略している）。なお、（ ）の中は、出題者が付けた注である。

インターネットは、世界共通のメディアであり、私たちは、世界中と情報を共有しているという X がある。このメディアは、国ごと、言語ごとに、そうとうに偏った情報しか流さないという特質を持っている。特に日本語や韓国語のような英語<sup>a</sup>ケン<sup>a</sup>以外では、その傾向はますます強くなる。

卑近な、わかりやすい例を挙げておく。

二〇一五年、新国立競技場（二〇二〇年、東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場）問題が深刻化する以前、日本のネット上では、韓国の平昌<sup>b</sup>冬季五輪の施設建設の遅れがサイサン<sup>b</sup>指摘され、「長野などとの分散カイサイ<sup>c</sup>が検討されている」という情報が飛び交い、日本のマスコミまでもがまことしやかに、このことを記事にした。これは、韓国のいくつかの市民団体が、そのようなゼイガン<sup>d</sup>をしたということに端を発した情報で、韓国の友人に聞くと、ほとんどの人が「そんな話は、はじめて聞いた」と答えるほどの小さなニュース<sup>e</sup>が拡大された例である。□ 1 この話題は、日本の新国立競技場問題が浮上すると、ネットではまったく流れなくなった。<sup>②</sup> 情けなさに、涙も流れない。北京五輪の際にも、その運営のチセツ<sup>e</sup>さを<sup>④</sup>擲<sup>④</sup>揄する情報がいくつも流れた。□ 2 これから日本は、その痛いしつぺ返しにあらうだろう。

心理学の世界に「確証バイアス」という言葉がある。人は誰でも、自分の主張に都合のいい情報、自分が下した判断を後押しするような情報を集めてしまいがちになる。またその逆に、反証となるような事実からは目を背けたり、あるいはその収集を怠ったりしてしまう。

最も有名な論理的説明は、「ウェイソンの四枚のカード」と呼ばれる事例だ。表に数字が書かれ、裏面は赤か緑のカードがあったとする。いまここに、「5」「4」「赤」「緑」とカードが並んでいる。「偶数の書かれたカードの裏面は赤である」という仮説を証明する

ためにどのカードをひっくり返すべきかを尋ねられると、多くの人は「4」と「赤」のカードか「4」のカードだけをひっくり返す。  
3、これは、間違いである。先の仮説の反例になるのは、「Y」のカードが発見されたときのみである。  
4、本来なら「4」と「緑」のカードをひっくり返さなければならない（「赤」のカードをひっくり返して裏が奇数でも、それは先の仮説の反証にはならない）。

もう少し分かりやすい例でいえば、星占いなどがあげられる。

朝のテレビ番組の占いで、「今日は意外な出会いがある」と聞けば、その日の出会いのすべてを「意外な出会い」と感じる。「今日は古くからの友人に助けられる」と聞けば、何か人から親切にされたことを、「古くからの友人の助け」と感じる（そのときには、付き合いが一、二年の友人でも、「古くから」にカウントしている）。だから、よく当たる占いとは、当たり障りがなく、誰でも経験しがちな事柄を、しかし、さも特別な事柄であるかのように書く文章力のことなのだ。これを「バーナム効果」と呼ぶ。

占いくらいならば実害は少ないのだろうが、<sup>③</sup>この厳しい例が血液型による性格判断である。

血液型による性格の偏りについては、まったく科学的な根拠がないことが証明されているにもかかわらず、これを信じている人は多い。「A型は几帳面」「B型は適当」といった先入観を持っていると、それに合致した例証ばかりを集めてしまう。たまに例外（と思われる事例）があっても、「あれ、〇〇さんって、B型なのに、けっこうしっかりしてるね」などと文字通り「例外扱い」をする。

これを「血液型占い」と呼ぶように「占い」の範囲として止めておくのなら可愛げもあるが、さも科学的な事実のようにあらゆる局面に適用を施すと悲劇が起こる。ひどい場合は、職場の配置などにこの血液型による性格分析を使う企業もあり、これを「ブラッドタイプ・ハラスメント」、通称「ブラハラ」と呼ぶらしい。

<sup>④</sup>おそらく、ネット社会はこの「確証バイアス」を加速させる傾向にある。私自身も、日常生活では、自分の感性に心地いいサイトしか見ないし、リンクも張らない。

ここ数年の嫌韓・嫌中ブームの不気味な広がりや、ネットにおける確証バイアスは強い相関性があるだろう。もちろん左翼陣営の側にも同様のことは起こっているに違いない。福島の放射能汚染を巡る話題にも、この傾向は強い。原発推進派も反対派も、無意識に自

分に有利なデータだけを引き寄せるので主張が先鋭化しやすい。

(平田オリザ『下り坂をそろそろと下る』による)

問一 二重傍線部 a と e のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄部  に入る最も適当な語を、その後の論旨から考えて、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 錯覚
- イ 常識
- ウ 事実
- エ 信頼

問三 傍線部①「小さなニュースが拡大された例」とあるが、これは何が、どういうものであることの例なのか、本文中の語句を用いて、三十五字以内で記せ(句読点等は字数に含む)。

問四 空欄部    に入る最も適当な語を、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ(同じ記号は二度使えない)。

- ア しかも
- イ しかし
- ウ おそらく
- エ だから

問五 傍線部②「情けなさに、涙も流れない」とは、(非常に情けない)ということであるが、何のどういう行為に対して情けないと思っているのか、次のア、エの中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア 日本のネット社会が、他者の弱点を突いたり蔑んだりする方向に偏っていること。
- イ 日本のマスコミが、ネット上の情報を裏付けもとらず記事にして流したこと。
- ウ 日本のネット社会が、絶えず刺激的で新しい事件ばかりを追い回していること。
- エ 日本のマスコミが、事態の真偽や重大さよりも民衆に受けられることを選んだこと。

問六 空欄部 

Y
---

 に入るのはどのようなカードか。表・裏の二語を使って、十字以内で記せ(句読点等は字数に含む)。

問七 本文中には「確証バイアス」の例として、次のア、エの四つが挙げられている。「ウェイソンの四枚のカード」の事例は、そのうちのどれにあたるか、最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア 自分の主張にとって都合のいい情報を集めてしまう。
- イ 自分が下した判断を後押しするような情報を集めてしまう。
- ウ 自分の主張の反証となるような事実からは目を背けてしまう。
- エ 自分の主張の反証となるような事実の収集を怠ってしまう。

問八 傍線部③「これの厳しい例が血液型による性格判断である」とあるが、実害の具体例を記した一文を選び、その最初の五文字を抜き出して記せ(句読点等は字数に含む)。

問九 傍線部④「おそらく、ネット社会はこの「確証バイアス」を加速させる傾向にある」とあるが、筆者がそう考える理由を、六十  
字以内で記せ（句読点等は字数に含む）。